

「学び合い 高め合い 認め合い 夢と希望を育む小鹿野小学校」

学 校 だ よ り

学校教育目標 ○仲良く力を合わせる子 ○明るく元気な子 ○進んで学習する子
小鹿野町立小鹿野小学校 第2号 平成29年5月1日

” ～旬の教育～ ”

校長 矢 嵐 泰

目に青葉 山ほととぎす 初鰹

目、耳、口で初夏（5月）の「旬」を鑑賞する俳句です。

新緑、初カツオ、あさり、ウド、キャベツ 等々、5月に旬を迎えるもの、食材がたくさんあります。旬という言葉の意味を調べてみると、いくつかの意味がありますが、一般的には、「魚類、野菜、果実など最も味がよい時期で量が多く出回る時期」「物事を行うのに最も適した時期」とあります。

この「旬」という言葉を使った「旬の教育」という言葉を最近ある集まりで耳にしました。実はこの言葉は20年前ほど前、お世話になった校長先生が話されていた言葉なのです。

学校教育に当てはめて考えてみると、1年生には1年生として行うのに最も適した時期、内容としての旬があり、6年生には6年生の旬があります。

さらに、この子には、この事柄に関する「旬」があり、こちらの子には、また異なった「旬」があるのだと思います。また、子どもをほめる「旬」もあれば、子どもをしかる「旬」もあるでしょう。

数年前に「いつやるの?」「今でしょう。」という言葉がTVで流行しました。子どもたちは1日1日、1年1年で様々なものを身につけていかななくてはなりません。その瞬間ごとが「旬」なのだと思います。「旬の時期」を逃して、異なる時期に身につけさせようとしてもなかなか成果は上がってこないのだと思います。これから自立した人間になっていく「子どもにとっての旬」は、時期を逃すことのできない、大切なものと考えられます。

学校では、学年・学級担任の先生方が1年間担当する学年の旬を見通し、計画的に指導を行っていきます。同時に、一人一人の子どもの状態をとらえ、その子どもにあった方法で「旬」を身につけてもらえるよう日々悩みながら接しています。「旬」を逃さぬよう先生方同士で情報を交換したり、方法を考えたり工夫をしています。

ご家庭で、保護者の方はお子様の「旬」はどのようにとらえられているのでしょうか。「今、うちの子の旬は何だろう。」

全てのご家庭でも共通する「旬」はあるのだと思いますし、保護者の方の様々な価値観で異なる「旬」もあるのかと思います。大切なことは、お子様を望ましい方向に育てていくということだと思います。

学校と家庭で考えをすりあわせていくよい機会として、これから「家庭訪問」が実施されます。短い時間ではありますが、有効にご活用くださいますようお願いいたします。

学校と家庭が互いに「旬」を逃さず、子どもたちの将来をしっかりと見据えていきましょう。